

平成 29 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	渡邊 克昭
専門分野 Academic Field	アメリカ文学・文化

主たる研究テーマ Principal Research Subject	アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学
<p>20 世紀後半以降、自然科学の多様な分野でテクノロジーが加速度的に発展するとともに、人間とはいったい何かという、人間存在の限界を規定してきた境界が根底から揺らぎ始めた。そうした背景にあるのは、人間の生命が物質によって構築されている以上、自由に改変することが可能であり、人間の能力は無限に拡張できるという思考の枠組みである。それによれば、人間の身体と精神と世界を継ぎ目のないものとして接合することが究極の目的となる。そうした現代のポストヒューマン的状况は、生命科学を駆使して人間の能力を飛躍的に拡充し、身体のあるようを改変しようとする生命工学と、仮想世界と脳の接続により脱身体化を志向する脳科学という、互いに逆行するベクトルを孕んだ二つの領域において進行している。このことを踏まえ、本年度は、人類の進化の極限に明滅する絶滅の危機と、地質学的な無底の時間をめぐる惑星的想像力を視野に入れ、身体器官、無機物、大地、アートが織りなす関係を手がかりに、ドン・デリーロ、リチャード・パワーズをはじめとする 21 世紀アメリカ小説のポストヒューマンをめぐる問題系を総括した。</p> <p>本年度に行った口頭発表は、以下の通り。1) 招待講演「破局と生成のアレンジメントーデリーロ文学における微粒子とメディアの亡霊」、京都大学大学院人間・環境学研究科、(2017 年 7 月 14 日、京都大学)。2) 特別講演「ドン・デリーロの惑星的想像力の場としての“Convergence” — 『ゼロ K』における「ポストヒューマン・ボディー」とアース・アート」、エコクリティシズム研究会第 30 回大会、(2017 年 8 月 5 日、サテライトキャンパスひろしま)。3) 阪大英文学会シンポジウム講師「シンポジウム・藤井治彦」阪大英文学会第 50 回大会 (2017 年 10 月 28 日、大阪大学)。4) 招待発表「囁き続ける水滴— 『ゼロ K』における「器官なき身体」日本英文学会関西支部第 12 回大会 (2017 年 12 月 17 日、京都女子大学)。5) 基調講演「デリーロ文学における微粒子— 『ポイント・オメガ』から『ゼロ K』へ」、並びにコメンテーター、科学研究費・基盤研究(B)「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と 21 世紀惑星的想像力」(2018 年 2 月 19 日、成蹊大学)。なお 2) については、『エコクリティシズム・レビュー』第 11 号 (2018 年、pp. 1-12.) に掲載の予定である。</p> <p>出版活動としては、『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』(共著) 貴志雅之編、金星堂、(2018 年 2 月 28 日発行)において、論文「「幸福」のこちら側—リチャード・パワーズの『幸福の遺伝子』に見る横溢と復元力」(pp. 352-370.) を掲載するとともに、『アメリカ文化事典』、アメリカ学会編、丸善出版、(2018 年 1 月 20 日発行)において、第 14 章「文学」の「小説」の項目(pp. 548-549.)を分担執筆した。</p>	